

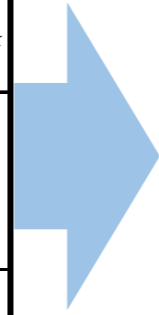
令和 5年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 ( スタジオアルテ生活介護 ) 作成日時 ( 令和 5年 9月24日 )

代表	施設長	本部
印		

令和 5年度 改善への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症等での職員欠勤を想定し、各部門の職員で協力が出来る様、支援においては支援シートを常に整え、誰が担当しても統一した支援を行なえる様にしていく。</li> <li>・職員業務においては、1人が1つの業務を抱え込むことなく、複数人で把握出来る様な体制を更に強化していく。</li> <li>・安心して過ごすことが出来る場所ということを第一に考えるが、活動がマンネリ化しないよう、アセスメントを元に活動の幅を広げ、利用者がその人らしく満足のいく生活が出来る様に支援を行なっていく。</li> </ul>
今年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的、精神、身体その他様々な障がいに対応し、御本人、御家族のニーズを個別支援計画に反映させ、明るい未来に向けて「やわらかく」支援していく。</li> <li>・本人、保護者、相談支援専門員やその他関係機関と連携し、今の安心から将来の安心へ繋げられる様な支援を継続していく。</li> </ul>

項目	事業所内評価を踏まえた上での問題点	事業所内評価を踏まえた上での改善点
環境・体制整備	・スタジオバレットの開所に伴い、以前の活動やエリアの使い方をベースに新たな環境でスタートした。導入としては大きな混乱もなく移行できたが、個性や活動の種類などより良い環境作りを目指し場所や人の整備が必要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の評価に基づき活動や場所の整備を行う。</li> <li>・職員の専門性を活用した役割及び体制整備を行う。</li> <li>・個としてのアート活動の多様化(手法、素材、時間(連続性)など)あわせて施設としての表現発表の場を設ける。</li> </ul>
業務改善	・法人全体及び事業所内でのスタッフの配置や人材管理の面、及び感染症での急な欠勤等の状況下において業務が滞らないための体制整備。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員間で業務内容を共有する。</li> <li>・意図的に職員間で話をする時間を設ける。</li> <li>・役割の分散、複数の職員が担える体制を作る。</li> </ul>
適切な支援の提供	・生活の安定や仕事や活動の充実など、安定している反面現状維持(プログラムの固定化)が続いている状況もある。	・改めて個別のアセスメントに基づいて現状の評価をし、支援内容、環境の調整等整理をしていく。
関係機関との連携	・相談支援事業所などとのやり取りは定期的にあるものの、他事業所や市町等との関わりなど知る機会も知ってもらう機会も少ない。	・市町が企画する会議や研修への参加や他事業所の見学や見学の受け入れなど、外部との交流の機会を意図的に持つようにする。
本人(家族)への説明責任等	・年2回の個別支援計画の面談や日々のLINEWORKSでのやり取りはしているが、人によってはその中では伝えきれないことや悩みについて定期的な情報交換や共有する時間があっても良いか。	・年2回の個別支援計画の面談以外での情報交換や相談に応じる体制やシステムの検討。
非常時等の対応	・緊急時対応マニュアルや防犯、感染症対応マニュアルの周知に関して、災害時の行動フロー的な物はご家族向けにアナウンスできているがそれ以外の物が用意されていない。	・感染症対応時の行動フローのようなものを作成し配布するなど、より明確な情報開示の工夫を検討する。



分析検討してみた事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で意見交換や情報交換がしやすい雰囲気が出ています。また、利用者さんと一緒に楽しんで創造的な活動を行う雰囲気がある。</li> <li>・現状に満足することなく、新たなことに挑戦しよう、もう一度基本から見直そうという前向きな姿勢がある。</li> </ul>

分析検討してみた事業所の改善点
・新たにスタジオバレットでのスタートした中で、引っ越しという大きなイベントは大きな問題もなく達成された。その中で改めて支援に関すること、業務に関すること、場所や環境に関すること、体制整備に関することなど、良い部分の修正が必要な部分を見極め、必要なことは見直す機会が必要。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・再度個別の評価に基づき、場所や活動、プログラムの見直しをする。</li> <li>・アート活動の多様化と表現の場の創設。</li> <li>・各業務内容を社員で共有し特定職員ではなく複数の職員が担えるようにする。</li> <li>・法人内外に問わず風通しの良い事業所作りを意識し、見学や研修・会議、交流など積極的に受け入れる。</li> <li>・個別支援計画の面談以外のご家族との話し合いの機会について検討する。</li> <li>・ご家族に向けた非常時の情報と行動フローの整理をする。</li> </ul>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所としての力や雰囲気、職員一人一人の支援に向き合い方や利用者さんとの接する姿勢など、良い部分は現状を維持していけるとよいと思う。また、先を見てもう基本に一度立ち返って学び、支援や活動等を整理していきたいという雰囲気も事業所として持っていることはとても大きな力として評価できるものと感じる。</li> <li>・ご家族からの意見等から事業所として弱い部分は見直し改善しつつ、より具体的にご家族の声と向き合う機会を増やすことも大切だと改めて感じた。</li> </ul>

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性と個別の評価に基づいた支援について改めて整理し、わかる・できる機会を増やすことで安心と自尊心を高められる支援に努める。</li> <li>・本人の生活や生き方を豊かにするお手伝いとして、事業所内での支援だけでなく生活全般を見据え、関係機関やご家族との交流や協働を意識していく。</li> </ul>
----------	---